

厚生労働省
東京労働局発表
平成 30 年 1 月 26 日

担 当	東京労働局職業安定部職業対策課
	課長 山本 三喜
	課長補佐 島村 正弘
	電話 03-3512-1662 (直通) FAX 03-3512-1565

「外国人雇用状況」の届出状況まとめ (平成 29 年 10 月末現在)

～外国人労働者数は約 39 万人。届出義務化以来、過去最高を更新～

東京労働局はこのほど、平成 29 年 10 月末現在の東京労働局管内のハローワークにおける外国人雇用についての届出状況を取りまとめましたので、公表します。

外国人雇用状況の届出制度は、雇用対策法に基づき、外国人労働者の雇用管理の改善や再就職支援などを目的とし、すべての事業主に、外国人労働者の雇入れ・離職時に、氏名、在留資格、在留期間などを確認し、厚生労働大臣（ハローワーク）へ届け出ることを義務付けています。

届出の対象は、事業主に雇用される外国人労働者*です。なお、数値は平成 29 年 10 月末時点で事業主から提出のあった届出件数を集計したもので、外国人労働者全数とは必ずしも一致しません。

*特別永住者、在留資格「外交」・「公用」の者を除く。

【届出状況のポイント】

- 外国人労働者数は 394,834 人で、前年同期比で 61,693 人（18.5%）増加（平成 19 年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新）。
- 外国人労働者を雇用する事業所数は 54,020 か所で、前年同期比 6,243 か所（13.1%）増加（平成 19 年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新）。
- 国籍別では、中国が最も多く 145,004 人（外国人労働者全体の 36.7%）。次いでベトナム 60,566 人（同 15.3%）、韓国 32,014 人（同 8.1%）、ネパール 29,126 人（同 7.4%）、フィリピン 24,858 人（同 6.3%）の順。対前年伸び率は、ネパール（31.4%）、ベトナム（29.4%）が高い。
- 在留資格別では、「資格外活動（うち「留学」）」の労働者が最も多く 126,634 人で、前年同期比 23,309 人（22.6%）の増加。次いで、「専門的・技術的分野」が 122,432 人（同 17,724 人（16.9%）の増加）、永住者や永住者を配偶者に持つ人など「身分に基づく在留資格」が 106,327 人（同 12,048 人（12.8%）の増加）と続く。
- 産業別では、外国人労働者を雇用する事業所のうち、「卸売業、小売業」が最も多く 12,301 か所（外国人雇用事業所全体の 22.8%）。次いで「宿泊業、飲食サービス業」10,894 か所（同 20.2%）。外国人労働者は、「宿泊業、飲食サービス業」が最も多く 87,213 人（外国人労働者全体の 22.1%）。次いで「卸売業、小売業」79,916 人（同 20.2%）。

(添付資料)

- ・別添 1 「外国人雇用状況」の届出状況【概要版】（平成 29 年 10 月末現在）
- ・別添 2 「外国人雇用状況」の届出状況まとめ【本文】（平成 29 年 10 月末現在）
- ・別添 3 「外国人雇用状況」の届出状況表一覧（平成 29 年 10 月末現在）